

公益社団法人日本地球惑星科学連合平成 23 年度第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 24 年 3 月 16 日 (金)
午後 3 時 00 分から午後 6 時 00 分
2. 開始場所 東京大学理学部 1 号館 843 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 19 名
出席理事 11 名 (定足数 10 名 会議成立)
出席監事 2 名
オブザーバー 7 名
4. 議長 理事 木村 学
5. 出席役員 理事 木村 学
理事 津田 敏隆
理事 大村 善治
理事 高橋 幸弘
理事 ウォリス サイモン
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 小口 高
理事 西 弘嗣
理事 富樫 茂子
理事 畠山 正恒
監事 松浦 充宏
監事 鈴木 善和
6. 出席オブザーバー
宇宙惑星科学セクションプレジデント 永原 裕子
地球生命科学セクションプレジデント 北里 洋
次期地球人間圏科学セクションプレジデント 氷見山 幸夫
大会運営委員会副委員長 岩上 直幹
大会運営委員会副委員長 北 和之
大会運営委員会・プログラム局局长 中本 泰史

午後 3 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長木村学は議長席に着き、開会を宣し、議事に入った。

7. 報告事項

(1) 情勢について

木村会長より、震災 1 年後の現在の情勢、役員改選などについて説明があった。

(2) 2012 年大会準備報告

(運営日程確認、大会プログラム関連、学生発表賞、展示企画申込状況)

(資料 P1-12)

中本プログラム委員長よりプログラム編成の進捗状況について説明があった。セッション数は 178、投稿数約 3800 (2000oral 1800poster) になる予定であり現在最終調整中である。高橋理事よりスペシャルレクチャー、シンポジウム、懇親会について説明がなされた。懇親会については、2 倍位の規模になるよう若手と呼べるような会にすることが確認された。岩上大会運営委員会副委員長より金環食のイベントについて説明があった。千葉サイエンスの会などのボランティアを頼み、1000 人規模で開催する予定である。前日の日曜日にめがねを作り、当日は最大食である 7:35 頃幕張メッセの駐車場周辺で望遠鏡 3 台を使い、投影版で観測する予定である。

(3) 委員会報告

・役員候補者推薦委員会

木村会長より当理事会の前 1 時から 3 時まで 747 号室にて第 1 回役員候補者推薦委員会が開催された旨報告があった。基本方針が決まり次回を 4 月中旬に開催し、社員総会で承認を得ることになると説明があった。

・男女共同参画委員会「男女共同参画学協会連絡会要望書作成について」富樫委員長より、上記要望書の現在の案については委員会として承認していないが、対応の結果は次回の理事会で報告する。他に、JpGU キャリア支援委員会と共同で大会時に実施している全員対象アンケートについては、現段階では十分な数のアンケートに答えてもらっていないので、メールニュースなどでアンケートに答えてくれるよう要請したいとの報告があった。

(4) ジャーナル関連

木村会長より以下の報告があった。文科省より、平成 25 年より科研費成果公開促進費に対する方針の変更に対する緊急説明があったので川幡理事が出席した。E-journal 必須、特別枠による Open Access 奨励とのことであった。まず、加盟の学会長に対して速報的情報を伝えるために、2012 年 2 月 17 日 (金) に「学術情報発信緊急説明会」も開催した。次に、川幡理事を中心に科研費成果公開促進費対応臨時委員会を立ち上げ連合加盟学会に集まっていただき 2012 年 3 月 14 日 (水) 第 1 回科研費成果公開促進費対応臨時委員会を行った旨報告があった。従来学会誌との関係をどうするかは今後の課題であるが、

委員会では連合の新ジャーナルについては、統一名の E-journal、Open Access を原則とし、ゆくゆくはセクションに対応する 5 巻をめざして、検討していくことが確認された。出版社を日本のものに限りというような縛りはない。学協会には共同編集という形で参加を募る。9 月の科研費応募に間に合うように準備作業に入る。学協会には共同編集という形で参加を募る。9 月の科研費応募に間に合うように準備作業に入る。

(5) その他

津田理事より中島大気海洋・環境科学プレジデントの代理としてセクション名変更についての進捗状況について説明があった。以前より名称変更について依頼しており、出来れば 2012 年大会中の社員総会の議題に入れたいと思っている。日本名は「表層流体圏セクション」と意見がまとまりつつあるが、英語名はまだ検討中である。総会議事に載せられるか否か、別途事務局に相談することになった。

8. 審議事項

第 1 号議案 公益社団法人第 2 期（平成 24 年 4 月-25 年 3 月）事業計画書

（資料 P13-22）

大村理事より事業計画書案について説明がなされた。平成 24 年度の事業計画の特徴は公益法人として、本格的に活動を開始することである。内容検討の結果、以下の点について修正を加え、書式や微細な字句訂正は総務委員会、事務局、会長で行うこととし、平成 24 年事業計画書案は満場一致で承認された。なお、承認された事業計画書は、公益認定委員会に提出される予定である。

修正点

1.5 のスペシャルレクチャータイトルは一目でわかり、日本語もつける、という要請があり、以下の通り変更になっている。（資料 P15）

R. B. Singh 「Spatial Information Technology for Diagnosticating Urban Landscape and Prognosticating Heat Islands in Mega Cities of India」

邦題：「インドの巨大都市における都市景観の把握分析とヒートアイランドの予測のための空間情報技術」

野口高明「イトカワ試料からはじまる次世代の惑星物質科学」

平成 24 年度事業計画書 P16 2.1 「連合」学術誌出版の準備は記載を以下の通り変更。

「本法人が統一して出版する電子版欧文学術誌（ジャーナル）の発行の準備を引き続きすすめる。地球惑星科学に関する研究の枠組みの整理と発展を目指したもので、本法人の主体性を定める重要な媒体と考えるとともに、扱うトピックスは地球惑星科学全体にわたる、国際的なコミュニティーへの情報発信媒体としても機能すると考えられる。今年度は新たな枠で募集される科学研究費補助金（研究成果公開促進経費）について申請する。この電子版欧文学術誌発行事業準備は、科研費成果公開促進費対応臨時委員会を経て学術出版委員会へ引き継ぎ行われる。」

2.2 日本地球惑星科学連合に加盟する学協会による学術誌等の出版推進

EGU: (期日 4月22日 - 27日、場所 オーストリアウィーン)に日程の記載変更。

AOGS: (期日 8月13日 - 17日、場所 シンガポールセントーサ)に場所の記載変更。

AGU: (期日 12月6日 - 10日、場所 アメリカサンフランシスコ)に場所の記載変更。

4. 国際活動の推進 (資料 P18)

4.1 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力の部分の記載で、「特に、2014年 AOGS 札幌大会が計画されており、連合が組織委員会を立ち上げて支援する。」となっているが、「特に、2014年 AOGS 札幌大会が計画されており、連合はそれを支援する。」という表現に留める。これに伴い第2回理事会の議事録も表現を訂正する。

EGU (European Geosciences Union):

(期日 4月22日 - 27日、場所 オーストリア国ウーン市)に日程の記載変更。

AOGS (Asia Oceania Geosciences Society):

(期日 8月13日 - 17日、場所シンガポール国セントーサ島)に場所の記載変更。

第2号議案 公益社団法人第2期 (平成24年4月 - 25年3月) 予算書

西財務委員長より3月26日に予算のみ認定委員会に提出予定であることが報告された。要求額よりかなり削減してある。大会の収入が予算よりプラスであればJGL、セクション経費、その他の順で予算をつけるし、逆の場合は同じ順で予算を削減していく旨報告された。ジャーナル費用として700万円は予算に計上してある。以上報告の後、H24年度予算は満場一致で承認された。

第3号議案 総会準備の件 (資料 P25-30)

総務委員会に代わり、事務局長の谷上より次回総会の日程案、議事案の提案がなされた。議案について、「第4号議案 役員 (理事) 選任の件」を加える、「大気海洋、環境科学セクション」の名称変更の件は保留とし次回理事会 (5月連合大会中)にて可能なら追加する、日程の調整及びその他必要な議案概要の字句訂正、文面の加筆などについては、会長に一任することで承認された。

第4号議案 財務委員会 銀行預金口座移動について (資料 P24)

西財務委員長より現在銀行預金口座が多すぎるので整理する必要がある旨説明があった。又、昨年度末会計士甲良先生より提案があり、基本財産の定期預金について増額をおこないたい。500万円プラスして1000万円にする方向であるが、最終的な金額は、会計士甲良先生の指導を受けて決めるという提案があった。上記2案とも満場一致で承認された。

第5号議案 国際学術委員会 AGUとのMOU締結について (資料 P31)

前回の理事会後、MOUの内容変更についてウォリス理事よりAGUに打診した。JpGU側か

ら相互メンバー料金適用について収入源につながる可能性があることから削除したいとリクエストをしたが、この項目についてはこの条項がないと交流という観点から鑑みて MOU を結ぶ意味がなくなるのでやはり入れたいと AUG から回答があった。データの共有に関しても特にはせず、各々のメンバーだと言えればメンバー料金が適用される、という鷹揚な形式をとることになる。ブース出展費についても最低 50%オフという記載は残したいというリクエストがあり、これも JpGU 側は受け入れることとなった。この MOU 締結に伴う年会費の減少などに関しては別の視点から議論するべきであり、今回はこの案で MOU を締結することが満場一致で承認された。ウォリス理事が AGU に連絡をし、正式に締結をする手続きに入る。

第 6 号議案 セッション以外の集会について (資料 P12)

高橋理事より無料で行われるセッション以外の集会・シンポジウムについて報告があった。1. 日本学術振興会 科学研究費・特別研究員制度に関する説明会は以前よりある集会なので問題はない。本年度より追加された 5. 男女共同参画シンポジウム「男性の育児休業・育児参加とライフワークバランス」及び 6. 東日本大震災に関する国際シンポジウムに関しても、問題はなく開催されることが満場一致で承認された。

第 7 号議案 ジャーナル関連の方針について (資料 P32)

9 月の科研費申請まで時間が限られるので、当面は科研費成果公開促進費対応臨時委員会を中心に活動し、セクションから新たに選出される学術出版委員会のメンバーをそこに合流させ、総会後の新学術出版委員会へ引き継いでいく形をとることになった。

連合の新ジャーナルは、統一ジャーナル名、統一発行プラットフォームの下で 5 つのセクションに対応する 5 巻発行をめざして立ち上げていくことを確認した。出版担当委員選出を含め、具体的検討事項を対応臨時委員会で早急に整理し、各セクションに正式にアクションの依頼をすることになった。

既存の学会発行国際誌と新ジャーナルと関係は、学会ごとに事情が異なるので、個別に協議検討することが必要であることが確認された。既存ジャーナルの連合ジャーナルへの合流、5 巻とは別途独自の位置づけを明確にしての科学研究費共同申請、従来通り独自の出版継続など様々な可能性が考えられるが、それに際しては、あくまでも既存ジャーナル発行の学会の意志が尊重されるべきことが確認された。連合発行の統一ジャーナルは、巻ごとに、関係の深い学協会との共同発行が望ましいことが確認された。その場合も共同発行の意志は学協会によることが提案された。

第 8 号議案 総務委員会 慶弔規則 (資料 P33)

大村理事より慶弔規則を作成する旨説明があった。
現役員、事務局員の家族に限り弔電、供花を行う内容の慶弔規則を作成し、

平成24年1月1日付で施行することが満場一致で可決された。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後6時00分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成24年3月16日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第3回理事会

出席理事	木村	学	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	大村	善治	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	富樫	茂子	印
出席理事	畠山	正恒	印